健都イノベーションパークNKビル（大阪府摂津市）に、来月1日に開業する国内最大級のシェアラボ「ターンキーラボ健都」。運営会社の京都リサーチパーク（京都市下京区）の小川信也社長は「当社のノウハウを生かした快適な研究環境と、研究者や医療従事者らが連携・交流する機会を提供することで、ライフサイエンス分野におけるイノベーション形成の一翼を担っていきたい」と話す。このほど内覧会のあったターンキーラボ健都を訪れた。

国内最大級のシェアラボ　4月1日開業

ターンキーラボ健都

シェアラボ内の実験スペース

快適な研究環境と交流機会

イノベ形成の一翼担う

ターンキーラボ健都は、時間単位でラボスペースが利用できる国内初のシェアラボ。健都イノベーションパークNKビルの4階に位置し、総面積931平方㍍。さまざまな実験ができる一般エリアのほか、遺伝子組み換えを行った動物細胞や幹細胞などを使った実験ができるP2／バイオ・セーフティ・レベル（BSL）2対応のエリアを設置した。実験エリア横にあるサロンでは交流会や説明会を開催でき、研究者らの情報提供の場としても活用できる。

シェアラボには必要最低限の実験器具などが備わっているため、機器購入や設置工事などのイニシャルコストを抑えられる。また、煩雑な届け出なども不要なため、すぐ研究を始められることもメリットの一つ。さらに実験スペースのほか機器も時間単位でレンタルでき、利用頻度に合わせて低価格で使える。

ターンキーラボ健都が入居する健都イノベーションパークNKビルは、国立循環器病研究センターや吹田市民病院などが立地する北大阪健康医療都市（愛称・健都）の一角に位置する。ターンキーラボ健都のほか、東京から移転する国立健康・栄養研究所やAI健康・医薬研究センターなどが入居する。こうした立地特性を生かし、研究者にとって快適な研究環境や有益な情報を意見交換できる場を提供していく。

（宮家宏彰）